



「オリンピック災害」
おことわり
連絡会
No Thank You to Olympic Disasters

2017年10月9日発行：300円

おことわりリンクパンフ vol.1

国際おことわりコンベンション (IOC) —反オリンピック ピョンチャンとリオ

2018ピョンチャン冬季オリンピックの実態

イ・ギョンリョル (スポーツ平和研究所)
谷口源太郎 (スポーツ・ジャーナリスト)

リオ五輪災害による「排除のゲーム」

ジセレ・タナカ (建築家、都市研究者)

「オリンピック災害」
おことわり
連絡会
No Thank You to Olympic Disasters

千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 1 階 A (ATTAC 首都圏気付)
電話 080-50520270 info@2020okotowa.link <http://www.2020okotowa.link/>
カンパを！ 郵便 00120-7-324492 「オリンピック災害」おことわり連絡会



これは一般的にカリワンサン(山)の環境破壊に反対する活動のなかでよく配布されたチラシです。そのときにチラシに書かれているスローガン「たった6日間のための競技のために500年も続いた山を破壊する価値があるのか」がたいへん評判になりました。--- イ・ギョンリョル

自然を豊かなものとして受けとりながら、決して自然を壊さない、そういうなかで育まれたものが冬季競技なのだという考え方がノルウェーにはあった。それゆえに、フランスが言うスケートだとかスキーのスロープだとかは人工的だと猛烈に反対した。それにもかかわらずこれをオリンピックに加えたということは、ノルウェーの言う冬季競技の持つスポーツ文化を否定してしまったことになるんですね。これは重大な問題でした。--- 谷口源太郎

実はリオ市内には二つの大きなゴルフ場があったのですが、オリンピックの基準を満たすには別のゴルフ場が必要だという名目がたてられて、自然を破壊して三つめのゴルフ場が建設されました。つまりオリンピックに伴う開発は、単にオリンピックの施設を建設するということではなかった。オリンピックの名のもとにデベロッパーがそれを利用したということが明白でした。不必要なゴルフ場が自然保護地区を潰して建設され、このゴルフ場はオリンピックの後に高級マンションが22棟建設されました。--- ジセレ・タナカ